

書評

渡邊弘著
『創価教育と人間主義』

利 田 律 子

本書は、作新学院大学学長の渡邊弘氏が、「国家のための教育」を「人間のための教育」へと変革する突破口を「創価教育」¹に見だし、その淵源や理念、そして「創価教育」がどのように実践・継承されてきたかをまとめた書である。

五つの章から構成され、第一章では、「創価教育」の源流たる『創価教育学体系』を著した牧口常三郎の生涯、牧口が構築した「創価教育学」の目的や理論的特徴、そして牧口の教育思想の意義を論じている。第二章では、牧口常三郎、戸田城聖、池田大作（以下それぞれ牧口、戸田、池田と表記する）の三代にわたって継承されてきた「創価教育」の精神の特徴を説明し、第三章では、池田がどのように「創価教育」を確立してきたかについて、創価学園・創価大学の設立、創価学会教育部の創設という側面から考察している。第四章では、創価学会教育本部の実践記録運動の意義を論じ、第五章では、人間主義の教育への改革をめざしてと題して、これからの教育・社会に求められる変革を述べている。

本稿では、特に第二章の「創価教育の精神の継承」に着目する。はじめに、第二章の内容を要約し、そのあと、牧口、戸田、池田の教育の理念を学び実践・継承していく上で、評者が本書から得た気づきを、自身の担当する授業での経験とともに紹介したい。

「創価教育の精神の継承」

著者は、牧口が実践をもとに築き上げた「創価教育」の根底に流れる精神は「途切れることも、変更・歪曲されることもなく、現在まで脈々と継承されている」（p. 69）と述べている。また、

Ritsuko Rita（創価大学池田大作記念創価教育研究所客員研究員）

¹ Goulah（2018, 2021, 2022）や Inukai（2021）が指摘しているように、「創価教育」という言葉は、様々な意味を含有する。例えば、牧口常三郎の提唱した「創価教育学」、創価と名の付く教育機関で行われている教育、創価学会員の教員が実践する教育、価値創造教育などである。本書では、第一章で、「牧口の代表作『創価教育学体系』は、創価教育あるいは創価教育学について、長年の教育実践と教育についての思索を集大成したものである」（p. 26）とあり、牧口の『創価教育学体系』で説かれる教育を「創価教育」と定義しているものと思われる。そして、その精神を受け継ぎ戸田城聖、池田大作によって展開された教育実践や活動を指す言葉としても「創価教育」が使われている。「創価教育」という言葉の多義性については、さらなる検証が必要であるが、本稿では「創価教育」という言葉を使用する際に鉤括弧をつけ、著者の定義する「創価教育」を指すこととする。

池田の「大偉業は一代で成し遂げることはできない。師匠から弟子へ、そして、そのまた弟子へと続く精神の継承があってこそ、成就される」（池田，2011b, p. 176）という言葉引用し、「創価教育」は牧口から戸田、戸田から池田へその精神が継承されてできあがったものだと説明している。

著者は「創価教育の精神の継承」として、下の12の特質をあげ、牧口、戸田、池田がそれぞれどのように体現し継承してきたか、引用を交えて紹介している。

創価教育の精神の継承「12の特質」

- ① 反国家主義の精神
- ② 対症療法的な改革への批判
- ③ 価値創造的人間の精神
- ④ 子どもの幸福のためという精神
- ⑤ 生命尊厳の精神
- ⑥ 「世界市民（地球民族、地球市民）」の育成の精神
- ⑦ 「知恵（智慧）」の精神
- ⑧ 「慈悲（慈愛）」の精神
- ⑨ 学習と生活の一体化の精神
- ⑩ 「連帯」の精神
- ⑪ 最大の教育環境としての教師
- ⑫ 「開かれた対話」（p. 111）

例えば、①反国家主義の精神については、牧口、戸田両氏が時の国家権力と戦い投獄された歴史に触れ、この、教育が政治権力に利用されてはならないという精神が、池田の「四権分立」の構想にあらわれていると述べている。また、④子どもの幸福のためという精神については、牧口の「児童に幸福なる生活をなさしめるのを目的とする」（牧口，1982, p. 130）、戸田の、「人生の真の目的は、幸福生活を営むこと」（戸田，1981, p. 255）、池田の「教育こそが、子どもたちの幸福の礎になるもの」（池田，2011a, p. 378）という言葉引用し、「創価教育」に確固たる目的観が継承されていることを示している。

「創価教育の精神の継承」という視点

この「創価教育の精神の継承」という視点は、評者が現在担当する授業を深めていく上で大変重要な示唆を与えるものとなった。

評者は、現在デポール大学の修士課程の中の Value-Creating Education for Global Citizenship Program（世界市民育成のための価値創造教育プログラム）で、Value Creation in Application（価値創造の実践）というコースを担当している。本プログラムの課程は全てオンラインで行われ、世界の様々な国から多様なバックグラウンドを持つ学生が集い学んでいる。評者の担当するコースでは、牧口、戸田、池田の教育思想や実践について、それぞれどのように異なるのか、ま

たどういった点が共通しているのかを分析する。例えば、Value-Creating Education for Global Citizenship Program の名称にも含まれている、「世界市民」「価値創造」といった概念は、牧口、戸田、池田の教育思想に共通する部分であるが、それぞれの捉え方、応用・実践の方法は異なる。三氏が、それぞれのコンテキストでどういった教育の理想を構築し実践していったのかを学ぶ中で、学生は自分自身のコンテキストにおける「世界市民育成のための価値創造教育」の形について考えていく。

これまでこの授業を担当してきて感じた課題は、牧口、戸田、池田の歴史的コンテキスト、人物像、教育思想、実践など、多岐にわたる内容をどのように統合し、そのエッセンスにたどり着くかということだった。授業では、これまで学んだ重要な概念やテーマをベンダイアグラムに書き込み、これらの概念をつなぐものを考えるという手法をとったが、三氏にまつわる内容の統合は容易ではなかった。その理由として、それぞれの生きた時代や立場が異なることが考えられる。例えば、牧口は小学校での教授の経験をもとに、具体的な教授法や実践について多く書き残しているが、池田は仏法者として、具体的な教授法や実践例というよりは、教育者の理想や目指すべき姿勢などを多く書き著している。ベンダイアグラムに書き込む作業を通し、三者それぞれの違いは見えやすくなったが、三者の思想・実践をつなぐものを見出すことに苦労する学生が多かった。

著者の「創価教育の精神」という概念は、三氏の教育思想や実践の根底にあるものに目を向けるという意味で、大変参考になった。ベンダイアグラムでの概念の比較を平面的な分析とすると、実践の根底にある精神に目を向けることは、立体的でより深い分析ができるようになるのではないかと考える。また、著者の挙げる12の特質は、牧口、戸田、池田が作り上げてきた教育の精神を継承し、各自のコンテキストに合わせて実践していく際の起点、また、自身の教育方法や姿勢を顧みる際の指標にもなりうるところに、その意義があるように思う。

評者の担当するコースはもちろん、Value-Creating Education for Global Citizenship プログラムで学ぶ多くの学生が、「世界市民育成のための価値創造教育」を学び、自身のコンテキストで実践・展開したいと切望している。言葉や文化も違う場所で、「価値創造教育」「世界市民育成のための教育」を実践していくには、その根本精神を理解し、その精神を体現しうる実践を生み出していくことが重要であると考え。と同時に、これは、牧口、戸田、池田によって構築・実践・展開されてきた教育思想が、創価学園や創価大学、創価学会教育本部にとどまらず、様々なコンテキストで実践出来得ることを示唆している。

著者の提案する12の「創価教育の精神の継承」の特質をもとに、様々なニーズのある教育現場で、どのような実践ができるのか、学生と共に探求して参りたい。

参考文献

- 池田大作 (2011a) 『池田大作全集』 第百一卷. 聖教新聞社.
池田大作 (2011b) 『教育の世紀へー親と教師に贈るメッセージ』. 第三文明社.

戸田城聖（1981）『戸田城聖全集』第一巻．聖教新聞社．

牧口常三郎（1982）『牧口常三郎全集』第五巻．第三文明社．

Goulah, J. (2018). The presence and role of dialogue in Soka Education. In P. N. Stearns (Ed.), *Peacebuilding through dialogue: Education, human transformation, and conflict resolution*. George Mason University Press.

Goulah, J. (2021). Value creation and value-creating education in the work of Daisaku Ikeda, Josei Toda, and Tsunesaburo Makiguchi. In W. H. Schubert & M. F. He (Eds.), *Oxford Encyclopedia of Curriculum Studies*. Oxford University Press.

Goulah, J. (2022). Foreword. In D. Ikeda, *The light of learning: Selected writings of education*. Middleway Press.

Inukai, N. (2021). Ikeda/Soka studies in education: A review of the anglophone literature. *Soka Kyōiku*, 14, 25-38.